北海学園大学　人文学部

Human ヒューマン

2016.12 Vol.08

CONTENTS

02 特集
札幌市内おススメ図書館&
おもしろカフェお散歩マップ

04 ヴラヂーミル生活（在外研修報告）
日本文化学科　教授　寺田 吉孝

05 就活応援

06 ゼミ紹介
日本文化学科　村中 亮夫　2年ゼミ（1部）
英米文化学科　上野 誠治　3年ゼミ（1部）

07 資格課程紹介

07 大学生観光まちづくりコンテスト
青森県知事賞受賞

裏表紙 人文学部TOPICS
人文学会レポート／
人文学の挑戦／
「学部対抗ビブリオバトル」初開催!

文化を学ぶ
世界と繋がる

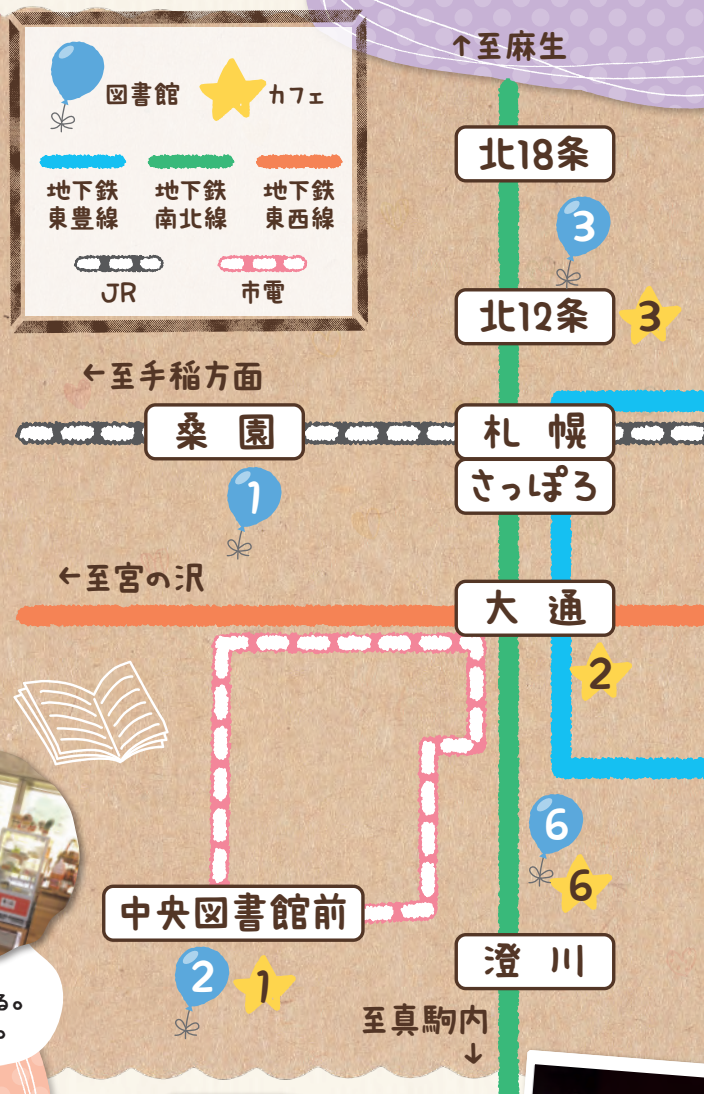
札幌市内 おススメ 図書館 & おもしろカフェ お散歩マップ

3 藤女子大学図書館

北区北16条西2丁目1-1

3 藤女子大学図書館

- 北18条駅すぐの藤女子大学。
- 宗教・女性に関する本が多い。
- 書庫に誰でも自由に出入りできる。



本棚びっしりの本。ぬいぐるみやおもちゃも多い。

1 ふきのとう文庫

中央区北6条西12-8

紙芝居や布絵本も数多く所蔵されている。

1 ふきのとう文庫

- JR桑園駅から徒歩9分。
- 道内唯一の私立子ども図書館。
- 子どもが遊べるしかけがいっぱいあった。
  ↳かるたやぬりえ、おままごとが人気らしい。
- 大人でも楽しめる空間。

子どもからお年寄りまで多くの人が訪れていた。

1 元気カフェ 本の森

- 図書館のとなりには、元気カフェ本の森がある。
- 店の奥にある窓からは藻岩山が見える。
- 本を読みながらのんびりできる場所。

図書館から出た人が自然と立ち寄ってしまうようなカフェ。

2 中央図書館

- 市電中央図書館前下車。
- 2014年4月に改装・リニューアルオープン。
- 電子書籍の活動に力を入れ、貸し出しも行なっている。

2 中央図書館 & 1 元気カフェ 本の森

中央区南22条西13-1-1

2 ワールドブックカフェ

中央区南1条西1丁目

2 ワールドブックカフェ

- 大通駅から徒歩3分。
- "大沢ビル"という建物の5F。
- 落ち着いた大人っぽい雰囲気。
- 店内に本いっぱい。自由に読める。
- 2週間貸し出しもしてる。
- コーヒーはおいしいし、BGMのジャズもかっこいいので何時間でもいられそう。

ドアを開けるとかわいいオルゴールが鳴る。

& 3 ププリエ

北区北12条西2丁目1-7

3 ププリエ

- 北12条駅すぐ近く。
- 人気No.1の
  チョコレートケーキは
  上品なおいしさ。

書庫の中には教科書、新聞、行政資料などがたくさん。

4 元町図書館

- 元町駅から徒歩10分。
- 職員の方のご厚意で特別に
  書庫などを見せてもらった。

4 元町図書館 & 4 プー横丁

東区北30条東16丁目3-13　　東区北23条東22丁目2-12

↑
至栄町

元　町

4

4 プー横丁

- 元町駅から徒歩19分。
- 倉庫を改装して作られたレトロなカフェ。
- 昔の車や公衆電話、まきストーブなど、
  今では少し珍しいものが店内にあった。

メニュー表が絵本になっていたりする遊び心あふれるお店。

5 東札幌図書館 & 5 茶房かのん

白石区東札幌4条4丁目1-4　　白石区菊水3条5丁目5-18

至白石方面→

至新札幌→

5

東札幌

5

おもしろい本を料理コーナーで発見！

5 東札幌図書館

- 東札幌駅から徒歩7分。
- 駅チカということもあり、
  とても混んでいた。
  （大人が多かった。）
- 元気な年配の職員さんは、
  子どもに大人気。

3段重ねのパンケーキにびっくり!!

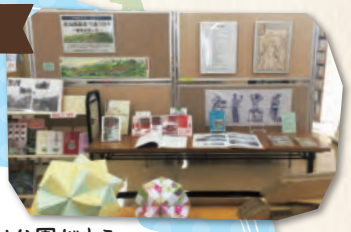
5 茶房かのん

- 駅から大きい通りに沿って
  図書館と反対の方向に
  12分ほど歩くと、茶房かのんがある。
- 落ち着いた雰囲気の店内で、
  主婦など女性の方が多く集まっていた。

至福住↓

6 澄川図書館 & 6 福ろうカフェ

南区澄川4条4丁目5-6　　南区澄川4条3丁目6-13



6 澄川図書館

- 澄川駅から徒歩10分。
- 自然豊かな立地で、となりには公園がある。
- 定山渓温泉開湯150年記念コーナーが作られていた。
  （↳関連本として“テルマエ・ロマエ”も置かれていた。）

キャラメルラテと今月のデザート。

ふくろう関連グッズも売ってる。

メンフクロウのケンとシロフクロウのブラン。みんなそれぞれちゃんと名前がある。

6 福ろうカフェ

- 駅から5分ほど歩いたところで、
  人目を引く“福ろうカフェ”の看板。
- 中に入ると全6種のフクロウと
  2羽の文鳥がいる。
- おさわり、えさやりOK！（別途料金）

制作：小林美咲　人文学部1部　英米文化学科2年（中標津高校卒業）

※本マップは、2016年度人文学演習A（村中ゼミ）の一環で制作されました。
※掲載情報は、2016年5〜6月に取材した内容に基づいています。

STAY IN RUSSIA

ヴラヂーミル生活／日本文化学科　教授　寺田吉孝

7月15日の帰国後3カ月以上経った。ヴラヂーミル大学での研修（調査・資料収集、共同研究、学生交換事業促進等）を中心に、カザン大学訪問（調査および出版局での翻訳出版交渉等）、ノヴォシビルスクにある協定校訪問（シベリア交通大学、ノヴォシビルスク大学国際交流関係者との協議等）等が行われた。遠い昔の出来事のようである。

スパソ・プレオブラジェンスキィ教会とヴラヂーミル市遠景

カザン大学社会学・哲学研究所副所長マリーヤさん（右）、カザン大学図書館、出版局の皆さんと一緒に

4月16日、現地時間16時、モスクワ・シェレメーチェヴォ空港到着。雪の寒い日だった。いつも出迎えに来てもらうタクシー運転手の連絡先を失くしてしまったので、信頼できる運転手を手配してくれるよう友人にメールで頼んだ。すると、その友人（アレクセイ、不動産業）ともう一人の友人（アンドレイ、イコン工房主宰）が空港まで出迎えに来てくれた。確かに信頼できる運転手である。アレクセイの二十歳を超えるロシア車ジグリが2か月前に修理不能の不具合を起こしてしまったとのことで、アンドレイの業務用のVWバンで来てくれた。モスクワを抜けるまで大渋滞。5時間近くかかりヴラヂーミル市に到着。

アンドレイ
（主宰するイコン学校にて）

アレクセイ
（民族衣装デザイナーのタチヤーナさんと）

今回の宿泊先は友人のアレクサンドル（年金生活者、元ヘリコプターのパイロット）の別荘である。別荘といってもヴラヂーミルの町中にあるマンションの1室である。彼の本宅は別荘から約30km離れた隣町のスーズダリ（旧市街が世界遺産）の郊外のメンチャーコヴォ村にある。その本宅の近隣にログハウスをほぼ自力で建築中である。そのため、最近は町の別荘をほとんど使用していないということを聞いていた。そこで、図々しくもそれを3か月間お借りした。賃料は、ログハウスのペチカ設置費用として使っていただくことになった。

アレクサンドル（奥さんのユーリヤさんと自宅のリンゴの木の下で）

メンチャーコヴォ村の教会

21時頃、アレクサンドルが待つマンションに到着。かなり広い2LDKマンション（90m^{2}超）である。ソ連崩壊後に建築されたかなり新しいマンションである。町の中心はここからトロリーバスで約5分、世界遺産の黄金の門やウスペンスキィ寺院があるところだ。大学も近く、家からトロリーバスで15分ほどである。

ヴラヂーミル市のシンボル「黄金の門」
（左に見えるのはヴラヂーミル大学旧館）

ヴラヂーミル大学は、学生引率を1994年から15回行っている馴染みの大学である。2014年に本学と大学間協力協定を締結した。相互の学生交換を目指しているが、同大学からの派遣は実現していない。その主な原因は、同大学で日本語授業が開講されていないことにある。協定締結後初めて2015年夏に同大学へ学生達を引率した。その折に、彼らとともに日本文化フェスティバルを行い、同大学の教員や学生達から大きな反響を得た。と同時に、日本や日本語について話を聞く機会を設けてほしいという依頼があった。それを受けて、今回の在外研修期間中に、同大学の人文学部と教育学部で講義を行った次第である。ロシアと日本（あるいはロシア語と日本語）を比較対照させながら、歴史、文化、言語、生活などについてお話しした。また、講義終了の翌週には懲りずに再び日本文化フェスティバルも行った。講義とフェスティバルへの反響は今回も好ましいものだった。しかし、日本語授業開講に関しては、財政上の問題が立ちはだかり、実現にはまだ時間がかかりそうである。しかし、驚くべきことが起こった。日本、日本語に関心を持った学生達が独学で日本語の勉強を始めてくれたのだ。どのくらいの期間どの程度勉強してくれるかはわからないが、学習支援を行っていきたいと考えている。本学への派遣につながることを期待している。

ヴラヂーミル大生の書道体験
（日本文化フェスティバルにて）

ヴラヂーミル大学と関わるきっかけは、1990年の初めてのソ連留学のとき、モスクワの大学寮でヴラヂーミル大学のロシア語教員のユーリィさんと同室になったことである。ソ連の大学教員は4、5年に1度3カ月程度の研修の機会が与えられていた。彼もそれを利用していた。彼に連れられてヴラヂーミル大学を訪問したのは、その年の秋のことだった。それ以来、同大学のスタッフとは種々の交流が続けられ、1994年からは学生達も受け入れてもらい、現在に至っている。お世話になった学生数は200人近い。最初に登場したアレクセイ、アンドレイ、アレクサンドルらのような大学外の友人も数多くいるが、ほとんどすべてユーリィさんの知り合い、「知り合いの知り合い」、あるいは「知り合いの知り合いの知り合い」である。学生引率の際も彼らからの援助は絶大である。

ユーリィさん
（2009年逝去、2008年撮影）

ヴラヂーミル大学から本学へ学生派遣が行われるようになり、双方の学生の間で、よき友、よき知り合いが増え、学生どうしの交流がさらに深まっていくことを願う。

ゼミ紹介

Seminar No.11

日本文化学科

村中亮夫
2年ゼミ(1部)
【地理学・GIS】

私のゼミでは、フィールドワークの方法論を修得することを目的に、受講生の関心に応じた身近な地域の散歩マップの作成に取り組んでいます。具体的には、これまで受講生の手によって、札幌市内のお勧めのカフェや食事処、自然を満喫できる公園のような魅力スポットのほか、狸小路などの商店街、鉄道の廃線跡（e.g.旧千歳線、定山渓鉄道）、名所旧跡、近代建築物、定山渓の河童伝説を紹介するマップなどが作成されました。本号の特集ページで紹介されている「札幌市内おススメ図書館&おもしろカフェお散歩マップ」も本ゼミの一環で制作された作品です。このマップからは図書館で借りた本を近くのカフェで読み、優雅な時間を過ごして欲しいという制作者の思いが伝わってきます。

以上の情報だけだと、私のゼミでは食べ歩きや市内観光をしているだけのようにも思われますが、その見方は一面的です。実際に、受講生は、散歩マップを作成するためのフィールドワークへ出掛けるまでに、授業中に市町村史や新聞のバックナンバー、古写真集等の文献資料の扱い方や、古い地形図の読み方を学びます。また、昭和期に撮影された札幌市内の映像を見ながら、生活の変化を理解します。さらには、自然科学的なフィールドワークと人文社会科学的なフィールドワークとの違いや、量的調査と質的調査の違いについても理解を深めます。そこでは、フィールドで収集した情報を記録するためのフィールドノートの書き方も実践的に学びます。すなわち、本授業で制作される散歩マップは、フィールドワークに関連する様々な技能を駆使して作られているのです。

本授業は、専門ゼミに入った際にフィールドワークを活用した研究に取り組むための基礎的な技能を、散歩マップの制作を通して楽しく学べるよう構成されています。人文学部の専門科目は、言語文化、思想文化、歴史文化、環境文化の科目群に大別されていますが、その中でも、データ収集の方法としてフィールドワークを活用することが多いのは、環境文化の科目群と関連深い学問領域です。しかし、これらの学問領域以外でも、例えば方言の分布や文学作品に表象される景観、歴史的事象と地形との関係など、フィールドワークを活用した研究テーマの設定が可能です。このように活用範囲の広いフィールドワークの方法を学び、新鮮なフィールドの空気を吸いながら人文学をエンジョイしたい皆さん、一緒にマップ作りをしてみませんか？

Seminar No.12

英米文化学科

上野誠治
3年ゼミ(1部)
【言語学・英語学】

私のゼミは、言語学・英語学を領域とします。ゼミでは、英語で書かれたテクストを精読しながら、言語にまつわるさまざまなテーマを考察します。今年度使用しているものは、E. M. Rickerson and Barry Hilton, eds. *The Five-Minute Linguist — Bite-sized Essays on Language and Languages*.（Second Edition. Equinox Publishing. 2012）で、各章が数ページからなる全65章の一般向け書籍です。毎回、少しずつ読み進めていきますが、これまで取り上げたテーマは、なぜ言語について学ぶのか、世界にはいくつの言語が存在するか、原初の言語はどんなものだったか、すべての言語は同じ起源を持つのか、リングア・フランカとは何か、文法の起源は何か、等々です。

言語を操る能力は人間を規定する重要な特質の一つです。われわれが使う言語とチンパンジーやイルカ等の動物が使う「言語」はまったく別次元のものです。人間は、創出したさまざまな文化を言語を介して仲間に伝えたり、世代を超えて伝承させたりできます。そのような人間に固有の言語を研究することによって、人間を、そして自分を知ることができるかもしれません。

また、この地球上には、日本語や英語を含めて7,000前後の言語が使用されていると言われます。中には、絶滅危惧種のような言語も数多くあります。いったんある言語が消滅すると、それを話していた人たちが築いた文化も永遠に失われてしまいます。その意味でも、言語と文化は切っても切れない関係にあります。

ゼミ生は、テクストの精読を通して、言語そのものに対する興味・関心を深め、そこから卒業研究のテーマを選ぶことになります。英米文化学科のゼミですから、英語に関する研究が軸になりますが、英語を分析するためには、まず英語の仕組みをよく理解する必要があります。一見複雑に見える文でも、高校までに習った（はずの）構文やイディオム等を解きほぐすことによって、正確に読み取ることができるようになります。この少々時間のかかる作業を通して英語を読む力、考える力が鍛えられます。

資格課程紹介

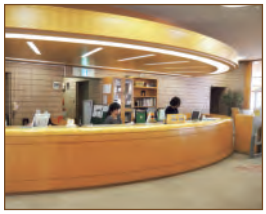
人文学部では多数の学生が資格取得を目指して日々努力しています。ここでは、本学で設置されている資格課程のうち、特に人文学部と関係の深い4つの課程について紹介します。

教職課程

- 教職課程は、教育職員免許状を取得するための課程です。中学校、高等学校などの教員を志望する人は、大学で所定の単位を修得し、教育職員免許状を取得することが義務づけられています。
- 本学の教職課程を修了し、教師として教育界で活躍されている先輩は1,000名以上に上ります。北海道内のほとんどの学校で、本学出身の優れた先輩教師に出会うことができます。
- 人文学部で取得可能な教員職員免許状の種類と教科は、以下の通りです。

	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
日本文化学科	国語	国語・地理歴史
英米文化学科	英語	英語・地理歴史

図書館学課程



- 本学の図書館学課程は、図書館の専門的事務に従事する専門職員である「司書」となる資格、及び学校図書館の専門的職務を掌る「司書教諭」となる資格を取得するのに必要な単位を修得できるように設置された課程です。
- 本課程は昭和45年に開設され、北海道内の四年制大学では、最も早くから司書と司書教諭の養成を行ってきました。現在までに北海道内の様々な図書館で活躍している修了生を多数輩出しています。

学芸員課程

- 学芸員は、博物館や美術館などの社会教育機関において、資料の収集・保管、調査研究や普及活動など、専門的事項を担当する専門職員です。
- 学芸員とは登録博物館または博物館相当施設に採用され、学芸員の発令を受けた者のことを指しますが、博物館に勤務していなくても市町村で文化財保護主事の発令を受け文化財行政の一翼を担うなど、資格取得者の活躍の場は次第に広がっています。
- 学芸員には、特定の分野において専門的業績をあげるだけの能力と同時に、他の分野においても収集・保管・展示・普及などに関する幅広い知識が要求されます。
- 個々人の専門知識や実務経験を充実させるために、休日などを利用して道内の博物館等施設での実習を実施しています。

日本語教員養成課程

- 本学では、日本語非母語話者に対する日本語教員の育成を目的に、平成10年度から日本語教員養成課程が開設されています。日本語教員養成課程のカリキュラムは、人文学部開講科目を中心に構成され、言語はもちろんのこと、外国語コミュニケーション能力や国際事情などの知識も身につけられるようになっています。また、海外の大学または国内の日本語教室で日本語教育実習を実践するための科目も設置されています。
- 日本語教員の免許、資格は公的な制度として確立されているものではなく、資格の認定は日本語教員養成課程をもつそれぞれの教育機関に委ねられています。本学の場合は、課程の修了者の申請にもとづき、大学卒業を前提として、「日本語教員養成課程修了証」を授与しています。

「大学生観光まちづくりコンテスト」で 青森県知事賞受賞

大学生観光まちづくりコンテスト2016（事務局：株式会社JTB総合研究所、株式会社三菱総合研究所）青森ステージにて、宍戸浩起さん（経営2年）、佐藤実和子さん（人文2年）、中村凌大さん（経済1年）、本間隆斗さん（同）による学生チーム“Hokkai Geographical Unit”（指導教員：人文学部　村中亮夫准教授）が青森県知事賞を受賞しました。本コンテストは地域活性化を目的とした観光まちづくりプランの内容を競うもので、2016年度は全国5つのステージ（青森・北陸・山梨・大阪・大分）に分かれて実施されました。本学学生チームが選んだテーマは「北海道新幹線開業に伴う周遊型「観光まちづくりプラン」」で、津軽海峡沿岸の北海道知内町、青森県今別町、佐井村を、新幹線をはじめとする公共交通機関でのんびり周遊するプランを提案しました。コンテストの詳細については、「大学生観光まちづくりコンテスト」のWebサイト http://gaku-machi.jp/ をご覧ください。

授賞式にて（青森市）

現地調査の様子（知内町）

木村学長へ受賞報告

人文学部TOPICS

人文学会レポート

北海学園大学人文学会第4回総会・大会
「AI がヒトを超えるとき
―相剋から共生に向かうために―」

主催：北海学園大学人文学会・人文学部・文学研究科
企画協力・後援：ESRI ジャパン

【ゲスト】
森　　洋久（国際日本文化研究センター准教授）
【パネリスト】（コメント順）
水野谷武志（経済学部教授）
山本健太郎（法学部准教授）
竹内　　潔（工学部教授）
佐藤　貴史（人文学部准教授）
【司会】
柴田　　崇（人文学部教授）

11 月 12 日（土）、豊平校舎 33 番教室にて、人文学会総会に引き続き、「AI がヒトを超えるとき―相剋から共生に向かうために―」をテーマに、ゲストの森先生による講演とディスカッションが行われました。

▲森　洋久先生

本年は、人文学会初の試みとして学外から情報工学がご専門の森洋久先生をお招きしました。森先生は、AI（人工知能）がヒトの能力を超えるとされる 2045 年問題に関して、批判的な立場から講演されました。

森先生の講演を受けて、パネリストの皆さんはそれぞれのご専門である経済統計学、政治学、細胞生物学、宗教学の立場から発言されました。最後には、フロアも含めて活発なディスカッションが行われました。

なお、当日の記録は『人文論集』63 号（2017 年 8 月末刊行予定）に掲載され、北海学園学術情報リポジトリ・HOKUGA(http://hokuga.hgu.jp/) でも公開されますので、ぜひご覧下さい。

人文学の挑戦

本学教員の研究成果を広く地域社会に還元するトークイベント、「人文学の挑戦」を紀伊國屋書店札幌本店のインナーガーデンで開催しています。人文学の最前線を紹介する本イベントは毎回好評を博し、2016 年度内に 11 回を迎えました。

今年度は、初めて法学部主催イベント「法学部カフェ」とのコラボレーションを実施しました。人文学部では、今後も特定の領域にとらわれることなく、研究と社会をつなぐ取り組みを継続してまいります。

第 10 回（第 41 回法学部カフェとのコラボレーション）
「議会・民主主義・立憲主義
―マグナ・カルタから日本国憲法まで―」
7 月 17 日（日）15：00―16：30

講師　仲丸英起（人文学部准教授）
講師　館田晶子（法学部教授）

第 11 回
「詩的狂気の想像力と海の系譜
―西洋から東洋へ、その伝播、受容と変容―」
10 月 23 日（日）15：00―16：30

講師　テレングト アイトル（日本文化学科教授）
聞き手　柴田崇（英米文化学科教授）

「学部対抗ビブリオバトル」初開催！

2016 年 7 月 15 日、人文学部・田中綾ゼミ × 経済学部・川村雅則ゼミで、「人文学部生／経済学部生はこれを読め！学部対抗ビブリオバトル」を初開催しました。ゼミ生はじめ教員ら 40 人以上を前に、両学部生 6 人による、本を通したコミュニケーションが繰り広げられました。

みごとチャンプ本に選ばれたのは、人文学部 2 年生が紹介した、西尾維新の小説『りぼぐら！』。

今後も、他の学部生と、読書を通じたコミュニケーションをはかっていきたいですね。

ヒューマン　2016.12　Vol.08
編集・発行：北海学園大学人文学部
〒062-8605　札幌市豊平区旭町4丁目1-40　http://human.hgu.jp/　TEL.011-841-1161（代表）　FAX.011-824-7729

表紙キャッチコピー：
文化についての深い理解を涵養することが異文化社会に生きる人々と真のコミュニケーションを結ぶ力になる、という人文学教育の理念をあらわしたものです。

制作・印刷：㈱アイワード
PD：馬場康広［㈱アイワード　2000年人文学部日本文化学科卒］